

令和4年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	6	単位数	4
教科	コミュニケーション英語Ⅲ	グループ名	S		
科目等名	英語				
ねらい	読んだことを理解し、情報や考え方などを整理できる能力を養う。既習事項を生かして、自分の考えを英語で適切に表現できる力を養う。				
担当教員	高尾 千優・上村 保志				
年間授業時数	140 時間				
使用教科書	MY WAY English Communication Ⅲ				
副教材等					

学 習 計 画

	月	単元（題材）名	指導時数	主な学習内容、ねらい（評価の観点）	指導の工夫 配慮事項
前期	4	Reading Skill1,2	22	主語と述語動詞、フレーズリーディング	ICT を活用し、生徒の解答や意見等を見える化することで、さまざまな考え方を共有できるようにする。
	5	Reading Skill3～5		代名詞、未知語の推測、パラグラフ構成	
	6	Reading Skill6,7	16	ディスコースマーカー（列挙・例示、時間的順序）	
	7	Reading Skill8,9	16	ディスコースマーカー（比較・対照、原因・結果）	
	9	Reading Skill10,11	16	スキミング、スキヤニング	
後期	10	Lesson1～3	30	エッセイ（異文化・歴史） 人物伝（生き方・国際交流） 論説文（科学・医療）	教科書の内容のほか、大学入試や各種検定等への対応力を上げるため、演習を定期的に行う。
	11	Lesson4～6		エッセイ（異文化・歴史） 論説文（科学・社会） ディベート（文化・日常生活）	
	12	Lesson7～9	12	論説文（比較文化・植物） 論説文（環境・共生） 人物伝（生き方・平和）	
	1	Lesson10～12	12	論説文（脳科学・学習） エッセイ（現代社会・技術） 論説文（情報社会・倫理）	
	2 3	Lesson13,14 Reading1 Reading2	16	論説文（平和・演説） 論説文（ことば・国際社会） 物語 物語	

評価の観点及び評価方法

評価は、次の3つの観点から行う。

知識・技能	・外国語の語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	・目的や場面、状況などに応じて、社会的な話題について、情報や考えなどの概要や要点、詳細、書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	・話し手、書き手の背景にある文化に対する理解を深めるとともに、その背景に配慮しながら、基本的な語句や文を用いて、情報や考えなどを、論理性に注意して書いたりして表現したり伝え合ったりしようとしている。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。（評価方法や評価のポイント）

定期考査、課題の提出状況や授業への参加態度などを総合的に評価する。

令和4年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	6年	単位数	4
教科	国語	グループ名	Sグループ		
科目等名	現代文B				
ねらい	・論理的な思考力を高め、現代の社会や文化への関心と理解を深めて表現できるようにする。また、小説として構築された世界を客観的に読み、人間存在や作者の人間観といったものに触れていく。同時に自己の読みをさらに固めていく。				
担当教員	坪田愛子				
年間授業時数	140				
使用教科書	「現代文B」(第一学習社)				
副教材等	「現代文B学習課題集」、「読解を深める現代文単語 評論・小説」(桐原書店)、自主作成プリント、問題集				

学 習 計 画

	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容、ねらい(評価の観点)	指導の工夫配慮事項
前期	4	・「自明性の畏」からの解放 ・わたしが一番きれいだったとき	11	【学習内容】文章の読解・語彙の用法 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成、韻文の理解	・電子黒板やホワイトボード等を活用する。拡大提示した本文に直接傍線を引く等、学習内容が理解しやすくなるように、視覚支援に努める。
	5	・葉桜と魔笛	12	【学習内容】文章の読解・語彙の用法 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成	
	6	・「私」中心の日本語	15	【学習内容】文章の読解・語彙の用法 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成	
	7		・ころも		
	9	・働かないアリに意義がある ・小説	16	【学習内容】文章の読解・語彙の用法 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成	
後期	10	・写真の持つ力	13	【学習内容】文章の読解・語彙の用法 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成	・電子黒板やホワイトボード等を活用する。拡大提示した本文に直接傍線を引く等、学習内容が理解しやすくなるように、視覚支援に努める。
	11	・言語が見せる世界 ・足と心	15	【学習内容】文章の読解・語彙の用法 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成、韻文の理解	
	12	・舞姫	13	【学習内容】文章の読解・語彙の用法 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成	
	1	・身体の個別性	14	【学習内容】文章の読解・語彙の用法 【ねらい】読解力および言語による表現力の育成	
	2	・幼なじみたち	13	【学習内容】文章の読解・語彙の用法 【ねらい】読解力および言語による表現力の育成	
	3	・「である」ことと「する」こと	8	【学習内容】文章の読解・語彙の用法 【ねらい】読解力および言語による表現力の育成	

3 評価の観点及び評価方法

評価は、次の3つの観点から行う。

知識・技能	語句や漢字等を理解しているか。また、文中で適切に使いこなすことができているか。
思考・判断・表現	根拠を基に客観的な読みができているか。また、根拠を示して自己の読みを固めようとしているか。様々な作品を読んで批評し、自身の言葉で論理的に述べているか。
主体的に学習に取り組む態度	国語に対する関心をもち、作品の語句・表現、読み方を高めようとする意欲をもち、授業に臨むことができているか。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。(評価方法や評価のポイント)

- (1) 定期考査・小テスト (2) 課題・提出物 (3) 授業態度

令和4年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	6 年	単位数	1 単位
教科	国語	グループ名	S グループ		
科目等名	国語表現				
ねらい	「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の能力を高め、自身が意図する内容を適切に表現する力を育成し、伝え合う力をさらに高める。				
担当教員	吉野美保				
年間授業時数	35				
使用教科書	「国語表現改訂版」(教育出版)				
副教材等	「国語表現演習ノート改訂版」(教育出版)、「現代キーワードファイル」(第一学習社)、「現代を知る Plus」(第一学習社)、「チェック&ワーク」(第一学習社)、「小論文チャレンジノート」(第一学習社)、国語辞典、自主作成プリント				

学 習 計 画

	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容、ねらい(評価の観点)	指導の工夫 配慮事項
前期	4	・小論文Ⅱ	3	・課題に正対した小論文を書く。	A0入試や推薦入試に向けて面接の学習や小論文演習に重点を置く。
	5	・面接 ・小論文Ⅱ	3	・実践的なコミュニケーション学習を中心に、互いに伝え合う方法を学ぶ。 ・課題に正対した小論文を書く。	
	6	・プレゼンテーション ・小論文Ⅱ	4	・実践的なコミュニケーション学習を中心に、伝わりやすさを意識した表現を学ぶ。 ・課題に正対した小論文を書く。	
	7	・話し合いの方法 ・小論文Ⅱ	3	・課題解決のための効果的な話し合い方法を学ぶ。 ・課題に正対した小論文を書く。	
	9	・プレゼンテーション ・小論文Ⅱ	4	・実践的なコミュニケーション学習を中心に、伝わりやすさを意識した表現を学ぶ。 ・課題に正対した小論文を書く。	
後期	10	・面接 ・小論文Ⅱ	3	・実践的なコミュニケーション学習を中心に、互いに伝え合う方法を学ぶ。 ・課題に正対した小論文を書く。	A0入試や推薦入試に向け面接の学習や小論文演習に重点を置く。
	11	・社会に働きかける表現 ・小論文Ⅱ	3	・「メディア」を意識した表現を学ぶ。 ・課題に正対した小論文を書く。	
	12	・漢字と語彙 ・小論文Ⅱ	3	・語彙を増やす。 ・課題に正対した小論文を書く。	
	1	・言葉の作法集 ・小論文Ⅱ	3	・日本語の言い回しを学ぶ。 ・課題に正対した小論文を書く。	
	2	・言葉の背景集 ・小論文Ⅱ	3	・論法や形態について学ぶ。 ・課題に正対した小論文を書く。	
	3	・文章サンプル集	3	・多くのジャンルの文章に触れ、言語感覚を育む。	

3 評価の観点及び評価方法

評価は、次の3つの観点から行う。

知識・技能	・表現に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けることができるか。 ・特に、社会事象に関する漢字や語句に対する理解を広げることができるか。
思考・判断・表現	・文章を読むことによって、より適切な表現をするために、自分の考えをまとめたり深めたりすることができるか。 ・様々な文章を読み、理解した内容を自身の言葉で表現できるか。 ・自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて効果的に話したり的確に聞き取ったりしているか。 ・自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、論理的な文章を書くことができるか。
主体的に学習に取り組む態度	・表現に対する関心を深め、積極的に表現するとともに、伝え合おうとしているか。 ・課題に積極的に取り組み、また、人の発言をよく見よく聞き、自身の考えを発言しようとしているか。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。(評価方法や評価のポイント)

- (1) 定期考査 (2) 課題・提出物(提出状況、理解度)  
(3) 学習状況および授業への取り組み(学習活動への参加状況)